



幹本申
5号

「2021年度新幹線総合車両センター業務計画等について」に関する申し入れを行う!

新幹線総合車両センターは、JR東日本唯一の新幹線工場であり、安全で快適な車両を安定的に供給するために日夜取り組んできました。現在、新幹線を黎明期から支えてきた世代から、JR発足以降に採用された世代への交代と同時に、車両が置き換わっていく時期に入っています。コロナ禍の厳しい経営状況でも、車両の安全と品質を守るために多くの努力をしています。一方で、労働環境に目を向けると、検査設備の老朽化や度重なる震災等による被害も残っています。

安全を確保し、私たちの働きがいを向上させるためには、施策の内容のみならず労働環境の改善も欠かすことはできません。職場の声に基づいて議論していきます。



<申し入れ項目>



1. 新幹線総合車両センターの将来構想を踏まえ、計画的に新規採用者を配属すること。また、2022年度の採用者数が縮小されることから、エルダー本体雇用を最大限活用し、新規採用者数と退職者数の乖離を抑制するとともに、技術継承を円滑に行うこと。
2. 新幹線統括本部の所属となり、技術科 技術管理Gの役割が増加していることから、退職者に対する補充を行うとともに、所全体で教育を担う体制を構築していくこと。
3. 施工科の直営作業が減少していることから、来年度以降も継続して基礎技術教育のカリキュラムに委託作業のOJT教育を盛り込み、新入社員の技術力向上を行うこと。
4. フレックスタイム制については、施工科の業務や社員の手続き等が不便にならないように、対象社員の勤務状況を見える化すること。また、定期的にトレースを行い、より良い制度となるように所全体で取組んでいくこと。
5. 利府線のダイヤ改正は、新幹線総合車両センターで働く社員の出勤に影響することから、仙台支社と事前に調整を行い、勤務時間を考慮したダイヤ設定とすること。
6. イオンモール開業以降の利用状況を検証し、お客さまや社員が安心して利用できるように、新利府駅や中央門の設備改修、利府線ダイヤの見直しを行うこと。
7. 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、マスクの配布や消毒液の設置など、今後も継続して感染症対策を講じていくこと。また、外部からの来所者については、引き続き検温と消毒を徹底するとともに、転入者に対する対応ルールを明確にすること。
8. 来年度以降の設備更新・老朽取替の計画を明らかにすること。また、福島県沖地震で損傷した箇所の修繕を早急に進めるとともに、危険箇所の耐震補強を行うこと。
9. グループ会社と一体となって新幹線の安全・品質を確保していくために、引き続きグループ会社の声を聴き、バックヤードの整備や職場環境の改善に取り組んでいくこと。
10. 監督科とグループ会社の連絡フローの周知徹底については、継続して取組んできて いるところではあるが、この1年間の成果と課題について明らかにすること。また、引き続きグループ会社への指導、およびJR直営社員への教育も実施していくこと。
11. 輸送管理科 機動派出Gについて、駅派出業務は本線上での運用車両に対する業務と なることから、社員が安心して業務を行えるように、十分な教育と定期的な訓練を実施し、社員の判断力や応急処置能力の向上に努めること。
12. 機動派出Gへの統合により、日中帯の機動技術要員が1名減となることから、臨時検査等に対応する能力を維持するため、輸送管理科 技術管理Gの体制強化を行うこと。
13. 列車無線にかかわる添乗業務については、メーカーの責任施工とし、検査科 落成Gの試運転体制を変更しないこと。また、試運転前の搭載品の積み込みについては、これまで通りに輸送管理科で対応すること。